

次期健康づくり運動に向けた課題について（案）

基本的な方向

- 健康日本21の目的である「壮年期死亡の減少」、「健康寿命の延伸」、「生活の質の向上」は引き続き重要。
- 生活の質、人生の質に注目した国民の総合的健康度をとりあげてはどうか。主観的健康度や生活満足度、幸せ度、前向き度、生き抜く力、現状肯定感等。
- 理想的な状態を目指すアプローチから、病気や障害があっても相応に暮らせる状態を目指すアプローチへの転換
 - ・ 個々人が健康設計を行えることが重要。理想的な生活の学習“こうすべき”型から、人生設計として健康課題をとらえる学習“こうありたい”型への転換が必要。
 - ・ 生活習慣病にならない支援だけでなく、一病息災で長生きするための支援も必要。
 - ・ 貧困等の様々な生活条件、健康格差の縮小方法等も考慮してはどうか。
- 生活習慣個々の改善アプローチから、包括的アプローチへの転換
 - ・ 食事、運動、睡眠、喫煙、飲酒などの生活習慣は相互に密接に関連するため、生活習慣全体を支援する包括的な対策が重要。
 - ・ 一人一人の人間は、いくつものリスクを有しているので、リスクがどう重なっているかをみていくことが必要。
- 家族、地域の絆の再構築－助け合いの社会へ－
 - ・ 東日本大震災からの学びを生かすことも重要。

取り組むべき健康課題（例）

- 高齢者の健康づくりの充実
 - ・運動器疾患、生活機能の向上
 - ・心不全の予防
 - ・認知症の予防
- 心の健康づくりの充実
 - ・睡眠習慣の改善
 - ・うつ病の予防
- 健康づくりのための環境整備
 - ・日常的に運動できる環境づくり（車に乗らなくてもすむような交通インフラの整備等）
 - ・食塩摂取量低減のための環境づくり（栄養成分表示の制度化等）
- 感染症（ワクチン、衛生教育）
- 事故防止（教育、環境整備）
- 健康危機（災害、感染症、食品安全）
- 環境（アスベスト、放射線）

推進方策・推進体制

- 他省庁・他部局との連携、ネットワークの相互活用促進
 - ・災害ネットワーク、虐待防止ネットワークと健康づくりの連動
- 自治体、保険者、企業、学校、各団体が自己評価、ベンチマークできる指標の導入
- 達成状況に対するインセンティブを与える仕組みづくり
(例) 大学：卒業時の喫煙率の公表、健康企業の公表、健康文化都市：宣言から実行性、結果評価へ
- 市民参加、市民主体の健康づくりの推進を考慮したカテゴリ、指標、対策の推進（NPO, NGO 活動の評価等も含む）

- アウトカム指標（健康状態の指標）、アウトプット指標（中間的な行動の指標、知識態度についての指標、取り組みの実績）、基盤指標（基盤整備、実施のための環境整備、マンパワー、予算、法制化）に分けた整理が必要
- 社会基盤整備の確保策への言及
- 保健活動と指標の関連についての分析を行う体制づくり
（例）運動プログラムと生活習慣病の減少、ワクチンと感染症減少効果